

## < 目 次 >

|                              |          |          |
|------------------------------|----------|----------|
| 1 平成24年新年に思う防災・減災            | 会長       | 早川 澄男    |
| 2 新年にあたって                    | ブロック代表   | 伊藤 善之    |
| 3 根尾谷断層・亜炭鉱採掘現場見学会           | 広報部長     | 藤井 芳弘    |
| 4 クロスロード講習会に参加して             | 北名古屋支部   | 山崎 澄雄    |
| クロスロード講習会                    | 江南支部     | 今井 節子    |
| 5 犬山市総合防災訓練に参加して             | 犬山支部     | 長谷川 三千夫  |
| 犬山市総合防災訓練に参加して               | 犬山支部     | 高木 優     |
| 犬山市総合防災訓練を経て                 | 犬山支部     | 伊藤 保和    |
| 6 江南市民まつり                    | 江南支部     | 今井 節子    |
| 7 浜岡原子発電所、御前崎周辺見学            | 江南支部     | 伊神 幸代    |
| 8 ふれあいフェスタ2011               | 北名古屋支部   | 堀内 千秋    |
| 9 いなざわ福祉まつりに参加して             | 防災ボランティア | 稲沢 村松 功雄 |
| 10 防災よもやま話 No. 34 防災都市名古屋の形成 |          |          |
|                              | 名古屋大学大学院 | 福和 伸夫    |
| 11 掲示板、お知らせ                  |          |          |

## 1 平成24年新年に思う防災・減災

会長 早川 澄男

会員の皆様 ご家族様と一緒に新年を迎え、新たな思いをされたと思います。今年こそ、安全・安心な年になるように祈念いたすところです。

昨年は、濃尾地震から120年の目標で防災・減災活動をスタートいたしましたが、新燃岳の噴火、2.22 ニュージーランド地震、3.11 東日本大震災、7月以降のタイの洪水、日本各地での豪雨・水害など国内外で大きな被害が発生しました。70億を突破した地球人への試練か。いかに安全に安心な生活が守れるのか、生きるための英知が問われる平成24年となりましょう。

東海・東南海・南海地震の3連動から、日向灘・南海トラフを含めての5連動巨大地震がまもなく来る。歴史を紐解くとそれは、繰り返し発生している。

100年に1度発生する大地震、1000年に1度発生する巨大地震、はたまた5000年～10000年に発生する地震と事欠かない。

いつ起きるか、学者さんの私見を聞くと10年後に関東大地震、20年後に東海・東南海・南海地震の3連動地震が起きるとか、阪神大震災から40年の2035年に巨大地震が起きると、いずれも

間違いなく、まもなく起きるという見解である。さらに、富士山まで噴火となれば、日本沈没ともなりましょう。

私達には、カウントダウンが開始されている状態であることを踏まえ、防災・減災活動に取り組む必要がある。

昨年は、新聞への投稿で「今の防災訓練は、避難訓練、消火訓練、煙道体験、救出訓練、応急手当などは、生きてこそ役に立つ訓練である」ゆえ、「1泊避難所体験をして、生きるすべを知るべし」、避難所には、何もないことを理解し、「避難所へ避難するときには、非常持ち出し品を持って避難すべし」などを学ぶべし。と掲載していただきました。

津波が来たら、4階建てに避難せよ？・・・まず地震が来たら、家の耐震化が問われ、次に家具の固定が試される。倒壊や転倒がなくて初めて、生き延びれる。さらに、1分・2分…5分と揺れたら、液化化でどうなるのか、家の傾斜や沈下、避難経路上での噴砂、電柱の傾斜、マンホールの飛び出しなど、安全に避難できるか、長周期地震動による高層ビル内など生き延びるための減災対策をしなければならない。

イメージトレーニングするだけでも、減災への第1歩となる。今年は、生き延びるための知恵をみんなで考えて、伝承と減災対策を広めたい。そういう意味で「防災伝道師」として活動していきます。

会長としても、5年目を迎えます。太田前会長から10年目大きな節目になるH24年では、役割を分担して防災・減災活動を進めていきたい。

NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネットには、「防災リーダー育成・養成、新人財の発掘」を期待し、あいち防災リーダー会では、「生き延びるための減災活動の推進、次世代の方々への防災・減災啓発」を推進していきたい。

今年こそ、皆様方・ご家族様が元気で朗らかな実り多い年でありますようご祈念申し上げます。

## 2 新年にあたって

## ブロック代表 伊藤 善之

あけましておめでとうございます。2012年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

昨年3月11日に東日本大震災が発生して、東北地方や関東地方に未曾有の災害をもたらしました。特に大津波による多数の死者や家屋の破壊など被害は大きく、更に津波によって福島第一原子力発電所が爆発を起して、日本のならず海外まで大変な騒ぎになってしまいました。「想定外」という言葉がよく聞かれましたが、これは自分たちの不勉強さを物語るものではないでしょうか。人のせいにしては駄目だと思います。岩手県と宮城県の被害の程度に差がありましたが、日頃の備えの違いが出たものと思われます。

東海地方では、東海・東南海・南海の三連動地震や養老―桑名断層や猿投―高浜断層などの直下型地震がいつ来てもおかしくない状態です。大地震に備えましょう。

我々の活動の一つとして、人材育成面では、“特定非営利活動法人あいち防災リーダー育成支援ネット”主催の「あいち防災リーダー養成塾」では、4日間で100名程の方が修了され、そのうち10名の方が西尾張ブロックに加入いただきました。新入会員の方々おめでとう



ございます。仲間と一緒に地元を中心に減災活動を致しましょう。

勉強会では、昨年は3月と10月に「クロスロード研修」を実施しました。防災リーダーは災害時にとっさに決断しなければならない場面が必ずあります。そのための事例をたくさん知ることができました。更に今年3月のブロック総会時に、名古屋工業大学の前田健一准教授による「最新の地震関連情報～西尾張地域での液状化災害～」(仮題)のご講演を予定しています。皆様方の多数のご参加をお願いします。

皆様が今年一年ご家族とともに健康に過ごされ、地元での防災減災活動中心に楽しんでご参加されることを心よりお願い申し上げます。

### 3 根尾谷断層・亜炭鉱採掘 現場見学会

広報部長 藤井 芳宏

平成23年9月24日(土)名古屋駅に43名集合した。好天に恵まれ名古屋駅を8:15am 出発。冒頭に早川会長から「防災を学ぶ者としてまず足元の地べたを知らにゃアカンよ!」と挨拶があった。

#### 1) バス内での勉強

そこでバスの中では、あいぼう会よりご招待した、充填技術部会事務長小松幹夫氏により、地質学・地質学を学び、45億年の地球の歴史、日本列島の誕生、東海地域の地層・地質、東西方向には糸魚川静岡構造線で二つに分かれ、その西側では南北方向には中央構造線で古い地層と新しい地層に分かれていることの説明があった。

東海地域は木曽三川により作られた広大な濃尾平野を取り囲み段丘堆積物による地層が分布している。これは大きな海面変動が繰り返されたため、縄文時代最大海進時には、現在より海面が3m 高かったと考えられている。伊勢湾の海面変化は現在を0mとして約1万5千年前の氷河期は0m に近く13万年前はかなり高くなって稲沢市まで海だった。

名古屋周辺の地盤構造は基本的には段丘地形を示しており、熱田台地が大曽根面で二つに区切られている、かつて庄内川が栄から今池方面に低くなっているあたりを流れていた、熱田台地より西側は、庄内川による新しく堆積した軟弱な地層(沖積層)となる。庄内川が何万年か前は名古屋の中心よりやや東を流れていた、また木曽三川も今の場所より東側にあったとか、興味深い話があった。

#### 2) 根尾谷断層観察館

地質の学習をしながら、今から120年前の1891年(明治24年)10月28日6時38分に起きた濃尾地震の震源地、岐阜県本巣市根尾水鳥の根尾谷断層に到着した。

地震規模はM8.0で、「根尾谷断層帯」が活動した典型的な直下型地震であり、これは日本の陸域で発生した地震としては観測史上最大である。全国で14万戸を超える建物が倒壊し、7千人を超える人々が亡くなった。それにより地震断層、延長距離は80kmと大規模なもので、

震源地の根尾水鳥地区(地震断層観察館)では上下に6m 長さ1000m にもなる断層崖が隆起した。この断層帯を観察し、その前で記念写真を撮った。その前には地震体験館の3Dシアターでは濃尾地震



〔根尾谷断層〕



の体験・地震発生（縦揺れの起振装置）と共に倒壊する家屋が目の前に飛んでくる・・・迫力満点で恐怖であった。



〔震災前の名古屋城〕



〔家屋の被災状況〕

この濃尾地震発生3日前の10月25日21時14分には揖斐川下流域を震源とする、前震と思われる地震（M6.0）が発生している。

過去には、745年（天平17年4月27日）に美濃を中心として発生した大地震が濃尾地震と類似した地震とする見方もある。また1586年1月18日（天正13年11月29日）に発生した天正大地震も、この地域を襲っており、広大な範囲に被害をもたらしているが、震源域は不明。

### 3）御嵩町亜炭鉱廃坑陥没現場・廃坑跡見学

このあとバスの中で昼食をとりながら岐阜県御嵩町へ移動し、バス内で御嵩町の亜炭鉱廃坑後の陥没事故が起きた時の映像ビデオを鑑賞後、御嵩町の資料館で町の歴史を学んだ。御嵩町は中山道の宿場町であった。

亜炭とは正式には褐炭と呼ばれ、炭化程度が石炭ほど進行していない炭化物を言う。亜炭鉱は御嵩町だけではなく尾張美濃地域に数多くある（美濃炭田、尾張炭田、三重炭田他）。太平洋戦争の前後にかけて盛んに採掘が行われて来た。続いて亜炭鉱の廃坑陥没修復学をした。



〔陥没で傾いた家〕

ここで御嵩町役場の職員及び工事担当の飛島建設の所長

から、亜炭鉱の廃坑を埋める工法・空洞充填工法（脱水ケーキ＋固化材＋水⇒充填材を注入する）を聞いて現場に向った。

そこにはテレビ・新聞で観た陥没によって傾いたり、歪んだ住宅があった。現実に目の当たりにする無人の被災住宅！「ひどい！これは人災だよ！！」とメンバーと叫んでいた。ここの陥没した住宅の人達は避難生活をされている。早く修復が出来てこの家で日常生活が出来ることを祈っている。

次は廃坑後の坑道に入っただけの見学観察で、誓約書にサインをして緊張した。万が一廃坑にいる時に天井が崩れて来たらどうしようとか、地震が起きて崩れてきたらどうしよう！頭をかすめた。廃坑の中はきちんと柱が残されており「残柱方式」とよばれるもので、坑道の安定を保つために亜炭層のある部分を残柱として残して採掘を行ったとの説明であった。



〔廃坑入口〕



〔廃坑内部〕

中に入るとひんやりして、なんだか太平洋戦争前後にタイムスリップしたように感じた。照明は小灯(高さ4cm 種油使用)、掘り方は高さ15cmの腰掛に座り垂炭下部を透かし掘りし、矢を使ってブロック化して搬出した。何事もなく無事坑道見学を終えることが出来た。

御嵩町では年間数件の垂炭鉱廃坑による浅所陥没がある、昨年の10月20日には大規模な陥没が発生した。今日見学した陥没発生場所の地下空洞部分の充填工事が終了し、この後家屋復旧となる見込み。まだまだ垂炭鉱廃坑後はあちらこちらにあり、ほっとけばいずれは崩れるので処理して行かねばならない事が今後の課題と役場の職員さんが云っていた。

#### 4) 可児市洪水現場見学

最後の見学場所である可児市土田(昨年7月15日洪水被害で死者1名 行方不明2名 トラック乗用車49台が流された現場) 可児川が二つに分かれ中州になっていて(鬼が島) 合流する所で氾濫したとの説明であった。行方不明者が出た場所はアンダーパスになっていてかなり低くなっておりそこで濁流に飲み込まれた・・・から大雨が降ったら危険だな!という場所をチェックし近寄らない事だと教訓を得た。以上で今日の見学スケジュールを消化し帰路に着た。今日は多くの学びがあり、有意義で充実した一日となり、今後のボランティア活動に生かされる事と思う。このような企画運営をして下さった竹山研修部長、早川会長に心より感謝申し上げます。



〔根尾谷断層観察館にて〕

## 4 クロスロード講習会に参加して

北名古屋支部 山崎 澄雄

平成23年10月29日(土) 午前10～12時 北名古屋市総合福祉センター もえの丘ふれあい広場にて災害対応カードゲーム「クロスロード」受付でYES、NO、カード各1枚受け取る。(参加者約40人前後?) 7人～8人で、5班に分かれ、グループを作る。司会者の指示に従い進める。



〔クロスロード研修会〕



例えば、ボランティア編で、炊き出しを手伝ってといわれた。Ｔシャツで行ったらまだ泥出しが残っているので、先に手伝って、と頼まれた。現場を見たとき、予定日を発表していた。泥出しを手伝う、ＥＹＳ、断る、ＮＯ、サー、どうする。即断、即決と言った具合である。私は、ＮＯと答えた。半々の答えであった。まずは炊き出しを先に行う。その後はリーダーが判断指示をして有う回答です。お互いに討議をする。後はリーダーにまとめてもらうといった感じであった。

この判断を下す事を通じて防災が他人事ではなく、自分の事として考え、又同時に他の人の、意見も聞けるので、大変参考になりました。他にも受付、職員、等々の例題があり参考になりました。色々な所で活用が出来ると思います。

## クロスロード 講習会

江南支部 今井 節子

いつ起きても、おかしくない東海・南海・東南海地震や いつやってくるか分からない豪雨災害、初めにクロスロードの説明があり問題の答えを直感で考えカードのＹ・Ｎで裏向きにして出す。

ゲーム感覚で行う。講師は尾関氏

7人構成 5グループ 1人＝カードＹ2枚（ＹＥＳ）Ｎ2枚（ＮＯ）持つ

10：00～11：00講習会 1回目 11：00～11：05休憩

11：05～12：00講習会 2回目

1回目

問題 答え カード Ｙ1人・・・勝つ 理由各テーブルで話し合う

Ｎ6人・・・負け 同上

問題 答え カード Ｙ5人・・・勝つ 同上

Ｎ2人・・・負け 同上

問題 答え カード Ｙ7人・・・無 同上

上記のような感覚で防災意識を高め向上を図る。ゲーム感覚で行う為に良いチームワークが取れていくのではと思いました。

2回目

各グループから1名が講師になったの練習（理由） 地域に戻って講師になる為に行う

問題 答えカード Ｙ3人・・・負け 理由 講師に回答 黒に近い人でも？

＊ 講師が代わるのは初めての企画だったそうです。繰り返し行っていくうちに上達し誰でも出来るのではと思います。お互いに頑張っていきたいのですが、前に出るのが苦手な私。お伝いは大好き。難問題は Ｙ・Ｎ は判断次第 考えながらも楽しい勉強会で有意義でした。有難うございました。

## 5 犬山市総合防災訓練に参加して

犬山支部 長谷川 三千夫

10月16日（日）午前に晴天の中犬山市総合防災訓練が開催されました。前日の土曜日は、夕方が



ら強い降雨があり、グラウンド コンディション等が心配されましたが当日は汗ばむほどの好天に恵まれ訓練が行われました。

今年度の防災訓練は、城東地区（犬山市の北東方面に当たる田園、里山、丘陵等自然豊かな地区）の市民を対象にした総合防災訓練でした。岐阜県東濃地方を震源としたM7.2 の直下型地震が発生したとの想定で訓練を開始。

メイン会場は城東中学校、サブ会場第一善師野公民館、サブ会場第二は今井小学校と三会場に分かれて実施され、それぞれの連絡はアマチュア無線防災ボランティアグループが情報収集・広報活動を含めて担当しました。

メイン会場の城東中学校グラウンドでは、現地対策本部の開設、情報収集、情報伝達、初期消火、水防、倒壊家屋からの救出、煙道体験、障害物除去、ライフラインの応急復旧、ボランティア支援本部開設、仮設トイレ、給水、炊き出し等々実施。体育館（防災リーダー7名参加）では、応急危険判定訓練終了後避難所開設、AED、応急担架、ロープワーク、防災・減災啓発等々を一時避難所から避難誘導されてきた塔野地区周辺の町内会長、町内防災担当の方々を対象にHUG（避難所運営ゲーム）を体験。

サブ会場第二（防災リーダー4名参加）の今井小学校では、要援護者の在宅（施設等も含む）での安否確認及び報告訓練、愛知県防災キャラバン隊の参加、防災・減災の啓発活動及び高齢者疑似体験（装具装着歩行）が実施されました。

小生はサブ会場第一のHUGのファシリテーターとして参加しましたので、メイン会場及びサブ会場第二の具体的な状況は分からないので省略、サブ会場第一のHUGについて報告します。

サブ会場第一のHUGは善師野、四季の里、もえぎヶ丘の町内会長、防災担当者44名と市職員の一部も入り、リーダー尾関研修部長からの説明、設定条件の説明後開始。一時間半程度しか取れないのでカードは1～125とした。

アイスブレイクによる自己紹介を簡単に済まし始めるが、初めは結構質問が多く説明しながら進行、進捗スピードが遅かった。とにかく皆さんで相談して、エイッ！ヤー！と即断、即決でいいですからと指導し何とか時間内に終わった。

質疑応答の後リーダーからの解説で、受付場所の設定で天候を考慮したか？ペットの取り扱い？（避難所は人の為のもの）、テレビは何処に設置した？等々解説があり、アッなるほど！当たり前と言えば当たり前と感じいった様子。短い時間ながら避難所運営の難しさ、避難者の多様性など少しは理解頂き避難所運営の心構えも分かって頂けたものと思います。

最後に西尾張ブロックより伊藤代表、伊神幸代、今井節子（江南）森千代子（岩倉）、杉浦 緑、加藤久美（北名古屋）様の応援を頂きありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



〔犬山防災訓練風景〕

## 犬山市総合防災訓練に参加して

犬山支部 高木 優

主会場では、昨夜来の雨も上がりましたがグラウンドの状態がどうかと心配されたところですが、少々ぬかるみはありましたが、実施するには支障のないコンディションとなりました。

10月16日開催の犬山市総合防災訓練の実施については、「犬山市安心情報メール」により午前6時10分に以下の内容のメールが配信されました。

「犬山市総合防災訓練は、予定どおり午前より、城東中学校、善師野公民館、今井小学校の各施設を使用して実施します」の配信が参加者にあり、全く混乱なくスムーズに集合できました。

- ・訓練会場1、城東中学校、体育館（現地災害対策本部、災害ボランティアセンター、避難所）
- ・訓練会場2、善師野公民館（避難所）
- ・訓練会場3、今井小学校体育館（避難所）

あいち防災リーダー会犬山は、この3ヶ所全部に訓練参加しました。以下は、今井地区の概要と今井小学校体育館での避難者の訓練内容について報告します。

### ＜今井小学校（今井地区）の概要＞

今井小学校（今井地区）は、犬山市の最東部に位置し南北約3キロ×東西0.5キロと幅がない山あいの山間田園地区で、その途中で鳥の羽のように東の方に耕作田や住宅が伸びているが、これらを含めて人家の建っているところは、土砂災害危険個所の指定がされている地区でもある。北端には、リトルワールドがあり、その付近から源を発して地区の中心部を成沢川が南端の入鹿池まで流てくる。

避難住民の方からは、現行の犬山市の都市計画区域からすれば、今後当地での若い世代の人口増加は期待できない。我々がしっかりと地域を守っていかなければと話される方もありました。本日の参加人数は50人位を予定していたが、昨日からの雨で田園に入って稲刈りが出来ないということで急遽30人程の方が自発的に避難訓練に参加されました。

### ＜訓練概要＞

#### ①要援護者の在宅（施設等も含む）での安否確認及び報告について・・・町内会役員及び市職員

・町内会役員は、避難者に対して、要援護者（災害弱者）及び隣近所（向こう三軒両隣）の在宅者に声を掛けて安否確認をしてきたかを避難者全員から聞き取り調査する訓練

・市職員は、町内会長より安否確認の結果報告を受けその内容を現地災害対策本部あて、犬山アマチュア無線防災ボランティアサークル（ARV）が無線でデーター通信訓練

#### ②避難者は、各地区（7地区）毎に集合して、自宅から今井小学校までの避難経路を一人ずつ地図に表記して道路状況その他も話題にして、全員で情報を共有・・・地区住民及び市職員

①の訓練でそれぞれの地区から避難してきた人が車座になり自分は、どの道を通ってここまで来たかを自己申告で地図に表記していただく、併せて自分の通った道路状況、橋、堀、川、側溝、側溝蓋の有無、等気づいた事を皆で話して情報共有訓練

#### ③あいち自主防災キャラバン隊による啓発活動・・・キャラバン隊

#### ④防災、減災の啓発活動及び災害発生時の避難場所の確認、「犬山市安心情報メール」の配信サービス案内等・・・あいち防災リーダー会犬山

避難者が避難所に入る時に県発行の「防災・減災 お役立ちガイド地震編」、「同風水害編」「防災協働社会」、「あいち防災通信 第7号」、犬山市発行の「犬山市安心情報メール配信サービス案内」、「避難



所増設案内」、「我が家の防災メモ」、「家具の転倒を防止や落下物の対策」、「非常持ち出し品を準備しよう」、「防災の歌 仲良しお隣さん」、「東海地震に関連する情報」以上をセットして参加の避難者に配布。

⑤、災害時要援護者制度のお知らせ・・・長寿社会化

・犬山市が現在取り組んでいる「災害時要援護者支援制度について」、「広報いぬやま」の紙面を使って市民の皆さんに広報しているが制度自体知らなかったといった意見もあり今回の訓練のなかで周知する。

⑥、訓練状況等について、無線により本部に通信・・・犬山アマチュア無線防災ボランティアサークル

- ・A R Vから今井小学校（避難所）への無線通信要員は一名でした。
  - ・無線要員に必要な資機材は、A R V通信要員が持参し避難所屋外に設置した。
  - ・市長の訓練会場の巡視等の時間についても詳細に把握できて訓練の中座を回避できる。
  - ・訓練会場が3ヶ所のためそれぞれの会場の訓練進行など本部との通信を密にして、終了時間の調整
- 犬山市総合防災訓練は、「地震想定」を岐阜県東濃地方を震源としたM7.2の直下型地震が発災したとして訓練実施しました。

災害の中でも地震災害については、市町の置かれている立場によって随分異なると思います。私達が住んでいる犬山市では、東海地震、東南海地震、南海地震がそれぞれが単独で発災した場合、或いは東海、東南海が連動したとしても犬山市の地域計画では、想定震度、想定被害ともに驚く程の内容になっていない。だからと言って、地震に対して、危機感がないといえそうではない。

総合防災訓練実施にあたり市の防災担当者と二回の打ち合わせ会、その一回の犬山市防災会議、そして参加のボランティア団体の訓練でしたが、曾田の自然災害の風水害、土砂災害等でも適応できる訓練であったと思います。今井小学校での参加者は、一般参加者 80余人、あいち自主防災キャラバン隊 9人 市職員 11人、あいち防災リーダー会犬山 4人A R V 1人でした。

平成23年度 犬山市総合防災訓練に参加した総数は、887人 内訳は、一般の参加者（3会場の合計）は、404人核種企業、団体、グループ参加者164人消防団員 43人、犬山市職員276人（消防含）この訓練参加者のうち、市職員の参加が非常に多いと感じました。

最後になりましたが、今回の防災訓練に快く応援参加をいただきました西尾張ブロック伊藤善之代表（一宮）、今井節子（こうなん、森千代子（岩倉）、杉浦 緑、加藤久美（北名古屋）の各氏には厚くお礼を申し上げます。防災リーダー会さま、大変にお疲れ様でした。

## 犬山市総合防災訓練を経て

犬山支部 伊藤 保和

雨上がりの平成23年度犬山総合防災訓練は、開催が危ぶまれる中、グラウンドは滑るんでの開催となった。地震を想定して、作成されたプログラムに従い、我々の地域、城東中学校をメイン会場とし、新たに拡大対称となった。（前回の平成19年度は城東地域のみの開催）善地野公民館、今井小学校、2地域をサブ会場として3会場で実施されました。メイン会場、城東中学校では、通常の防災、減災活動である非常時、持ち出し見本などと共に、避難にさいしパンフレットなど配布し啓発した特に大規模災害に備え、あらゆる自然災害に気配周囲の人たちと協力して防災、減災、に取りくんでゆく必要性を強く感じ東海、東南海、南海3大地震の同時発生に備えたい。

当日は途中より晴天となり暑く仮設トイレの設営に関ざわり、次のグループが来場する間に解体して

収納、次のグループの組立にたいしては指導して進め、男子、女子、リーダー会6名で対応した。仮設トイレの中に体験実感するために内に入ったが、とても暑く、息苦しかった。通気と喚起を考慮し改良する必要があると思う。出来れば夜間を視野にいれれば暗いと思われるので、照明も必要。主催者は訓練のため訓練になっていないか？誰のための訓練かを考えるとき、主催者は各町内の参加者には、防災用品のうち、水一人一日3ℓカンパン、缶詰め、カップ麺を最低でもリックサックに入れて背負い、最終の集合場所である城東小学校に参集するように指導すべきではないでしょうか。

## 6 江南市民まつり

江南支部 今井 節子

いつ起きてもおかしくない東海・南海・東南海 8月23・27日ついに来てしまったゲリラ豪雨「自分の命は自分で」「地域のことは地域で」「公助不可」 「展示・啓発・啓蒙・体験コーナー」「あなたの家は大丈夫？」子供向け「防災ぬりえ・金魚すくい・ヨーヨー」江南商工会議所が主催。場所はすいとびあ江南

初日秋晴れ、天高く響きわたるドカーンの合図で、市内の商工業者が出展する「2011」江南市民まつり」商工会長・市長・議長・県会議員・テープカットで式典オープンした。

カーテンや食品の即売コーナー、バザー、子供のふれあい場があり大勢の人が入場した。

室内では地場産業のインテリア織物の展示・物産展。野外ステージでは幼・小・中・高の演奏



2日目はカーテン生地を使ったファッションショー・鼓笛隊・ソーラン演技。その一角で2日目こうなん防災リーダー会（平成16年から8年目）設営 義捐金箱設置

[資料]防災・地震・風水害・耐震・安心ねっと171伝言・あいち防災通信・組立トイレ説明書

[展示物]非常持ち出し袋・防災用一式・水・非常食・カロリーメイト・固定家具止め・簡易トイレ。[体験コーナー]あなたのお家は大丈夫？ 家の模型（強弱の差・筋交いの有・無）

瓦の軽重？親・子 体験始めは遊び半分だった様子が深刻になり「筋交い」のことを覚え繰り返し体験され熱心・関心度UPでにっこり。校内の展示物を見て頂き資料を渡し説明をした。

[瓶見本]浸水・液状化、沈下した場合？説明した事に対して男・女・共関心が深く浸水・液状化地域のマップが欲しいと言われた。[防災塗り絵]コーナー 子供を呼び込み満席になり大盛況。

学生・親さん達には展示物をみて頂き資料を渡し説明をした処、この商品の販売先は？置き場所は？の質問が多かった。[イベント・子供向け]金魚すくい・ヨーヨーの場所は人の山、時間より

3月11日「想定外」という言葉が繰り返されている東北地方太平洋沖地震における（震度9）津波の被害。更に8月23日・27日ゲリラ豪雨があった為、説明を熱心に聞かれ多くの人から質問も沢山あ



りました。両日共天候に恵まれ大盛況に終わり、リーダー会も年々向上してゆくことを願っています。お手伝いに来ていただいた犬山の方有難うございました。感謝いたします。

\*義捐金募金箱設置の結果 6,112 円+寄付 3,888=10,000 を10月15日中日新聞尾張版 社会事業団寄付 東日本大震災義捐金係へ寄付しました。

## 7 浜岡原子力発電所、御前崎周辺見学

江南支部 伊神 幸代

福島第一原子力発電所事故の為に今回浜岡原子力発電所に行きたいと思い見学してまいりました。1号機から5号機までの発電設備がある1,2号機は2009年1月にて運転を終了した。

2011年3月11日、福島第一原子力発電所事故の教訓から同年3月16日に2～3年以内に地上高は18mの防波壁を作る計画が発表され完成予定も2012年12月と大幅な前倒しとなった。

毎日のように報道されている、いつ来てもおかしくない静岡県～御前崎を震減域とする巨大地震（東海地震）、伊勢湾～三重県沖を震源域とする巨大地震（東南海地震）の警鐘が鳴され続けています。地震の被害はマグニチュードや津波の高さだけで決まるものではないと思っています。

だからこそ私たちは、東海、東南海地震とその背後にある「核」に備えて一層気を引き締める必要があると思われます。私自身、見学して思った事は、あんなに設備、点検されていてもあのような事故が起きてしまった事は、携わっている人達、一人、一人僅かな気の緩みがあつたのではないのでしょうか？すなわち、どの分野においても日頃からのチームワーク、コミュニケーションが必要ではないかと感じました。その後、御前崎灯台へ向かいました。一帯は、風が強く4月から10月にかけて遠州の突風と呼ばれる偏西風が吹く。南西端に御前崎灯台が立っている。1874年5月1日イギリス人、リチャード・ヘンリープラントンの設計、指導により煉瓦造り灯台設置、点灯されました。又周囲にも地盤沈下があるそうで是非、又訪ねて視たいと思いました。



## 8 ふれあいフェスタ 2011

北名古屋支部 堀内 千秋

準備は前日の午後より行われました。ブースは今年は中央に変わりましたが、地震の起る構造など、絵、説明文の入った掲示数枚、非常時に持ち出し袋の中身を机に並べる、パネルにぶら下げ、ポリバケツや段ボールで作った簡易トイレ等展示しましたが充分場所がありました。東日本地震、被災地にボランティアに行かれた時の写真を台紙に貼ったりしま





した。当日は開催セレモニーの後、山崎さんの東日本地震被災地でのボランティア活動報告が凡そ45分間ありました。

スタンプラリーで8個以上でクリア賞を貰える体験コーナーでは、ロープワーク（連続止め結び、もやい結び）新聞スリッパ作り、2人しかされなかった卓上ぶると皆交代しながら行いました。始まった頃は出足あまり良くありませんでしたが、序々に増え机一杯になったりし、全部で、およそ302名の方が参加して下さいました。成功だったかなと思いました。来年はゲーム感覚で子供達にもっと楽しく参加出来ることがあるといいな～と思いました。2時半迄しっかり出来ました。

## 9 いなざわ福祉まつりに参加して 防災ボランティア稲沢 村松 功雄

稲沢市勤労福祉会館と総合体育館にて10月22日（土）・23日（日）の2日間、いなざわ福祉まつりが開催され「防災ボランティア稲沢」も防災啓発コーナーに参加しました。「防災ボランティア稲沢」では多数の見学者がブースに訪れて頂けるよう工夫しました。3月11日の東日本大震災の強烈な印象が強く、地震に対しての市民の皆さんの関心は高く多くの市民の方が熱心に次のように参加・体験していただきました。①「木造倒壊ぶるる」を揺らし視覚的に体験②防災クイズの家族での参加③バルーンによる集客④家具固定器具の展示⑤紙の柱による強さの工夫体験等、多数の児童と保護者市民参加体験していただき大変好評でした。本イベントが減災に繋がるよう参加・体験された市民が出される事を期待しています。



防災クイズ&家具固定展示説明

## 10 よもやま話 No.34 防災都市・名古屋の形成 名古屋大学 福和 伸夫

APLA の皆さん、こんにちは。今年も残り少なくなりました。この1年は、新燃岳の噴火、ニュージーランドでの地震、東日本大震災、台風や豪雨など、激動の1年でした。皆様も、様々なお立場で、被災地支援など、大変な年だったと思います。本当にご苦労様でした。年末年始には、少しゆっくりとお体をお休め下さい。

さて、今回は、私たちのまち、名古屋のことを勉強してみたいと思います。皆さん、名古屋は、もと防災都市として作られたことはご存ですか？ 名古屋の歴史を振り返りながら、これからの地震への備えについて考えてみたいと思います。

名古屋には、日本武尊の草薙剣を祀る熱田神宮や日本武尊の妃・宮簀媛命を祀る大高の氷上姉子神社な

ど、2000 年近くの歴史が残っています。氷上姉子神社はかつての国造・尾張氏の本拠地でもあります。

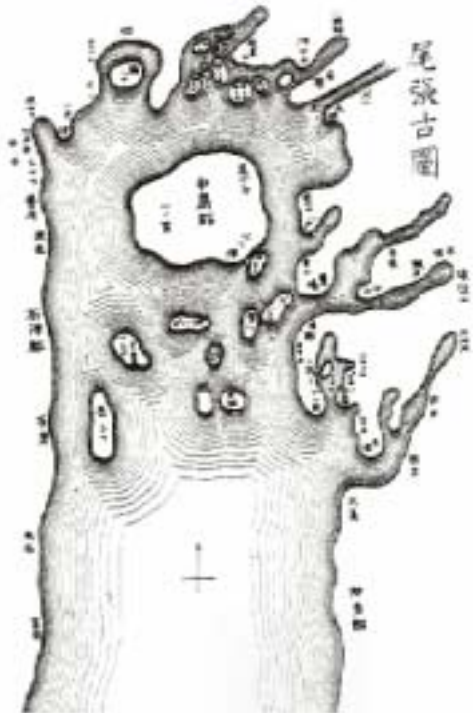
愛知の地名は、「あゆち」に由来すると言われ、当時は、南区や緑区には年魚市（あゆち）潟や鳴海潟などの入り海が入り込んでいました。図は、猿投神社に伝わる養老元年（717）に書かれたとされる「尾張太古之図」ですが、当時は、熱田や笠寺、大高などに陸地が限られていたことが分かります。名古屋の本格的なまちづくりは、1610 年に行われた清洲越しに遡ります。徳川家康（1543～1616）は、大阪への守りを固めるため、水害危険度の高い清洲から名古屋に城を移す清洲越しを行いました。昨年はこれから丁度 400 年を迎えた年だったため、あちこちで開府 400 年の行事が行われました。

名古屋城は、中図の絵図のように、熱田台地の北西端に築かれ、東西 5.7km、南北 6.0km の逆三角形の形で城下が作られました。名古屋城の史料「金城温故録」によれば、築城前の那古野は「葦深く生い、雉子沢山にすみける」とあり、西や北に湿原を見下ろす台地の上に城を築いたことが分かります。もともと、この地には今川義元（1519～1560）の父・氏親（1473～1526）が築いた柳之丸と呼ばれる城がありましたが、その後、織田信長（1534～1582）の父・信秀（1510～1551）のものとなり、那古屋城と名付けたようです。信長もこの城で生を受けています。

ちなみに、信秀はその後、古渡城（1539）や末森城（1548）を築き、居城を移していきます。信秀の死後、信長は 1551 年に家督を継ぎ、1554 年に清洲城に居城を移し、その後、1560 年に桶狭間の戦いで勝利して、天下統一へと向かっていくことになりました。本能寺の変（1582 年）による信長の死の後、秀吉（1537～1598）の世となり、小牧・長久手の戦い（1584）、朝鮮への出兵（文禄 1592、慶長 1597）、秀吉の死（1598）、関ヶ原の戦い（1600）、江戸幕府（1603）、大阪冬の陣（1614）、夏の陣（1615）と、歴史上の大事件が続きました。

日本の 3 大都市、大阪、江戸、名古屋のまちづくりはちょうどこの時期に行われました。最初に作られたのは大阪です。信長の没後、秀吉は 1583 年に大阪城を築城し、その後、1590 年に家康を江戸に転封させました。江戸の開府は 1603 年になります。そして名古屋の築城は 1610 年になります。

この間は大地も激動の時代でした。1586 年天正地震、1596 年には 9 月 1 日慶長伊予地震、9 月 4 日慶長豊後地震、9 月 5 日慶長伏見地震、1605 年慶長地震、1611 年慶長三陸地震と続きます。



〔尾張太古之図〕



〔正保 4 年（1647）名古屋城絵図〕



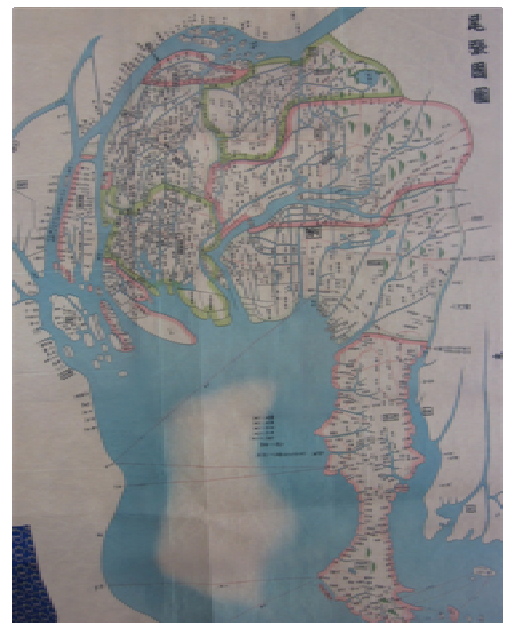
その後伊達正宗（1567～1636）により仙台のまちづくりが行われました。ちなみに、清州城の遺跡では天正地震での液状化跡も見つかっています。また、慶長地震と慶長三陸地震では大きな津波災害が発生し、その後作られた東海道や奥州街道は津波被災地を避けるように作られているようにも見受けられます。残念ながら現代の東海道線、東海道新幹線、東名高速道路は、東海道よりも海側に作られ、津波危険度の大きな場所も通っています。

名古屋城を築城した熱田台地は、北と西からは攻められにくい地形にあり、台地の北の崖下には矢田川が流れ、台地西端には堀川を築くことで、軟弱な地盤との間を境いしました。城下は、城の東と南に広がる熱田台地に基盤の目状に整備しました。台地の南端には熱田神宮が位置しています。そこで、神宮と城を本町通りで南北に結び、それを中心に逆三角形のまちを台地上に作りました。戦乱の世が終わり、天正地震、慶長伏見地震、慶長地震の震災経験も踏まえた平時のまち作りでもありました。

江戸時代には、万治の大火（1660）や元禄

の大火（1700）が発生しました。これを教訓として、焼け止まりとして作ったのが、広小路や四間道になります。まさしく広小路通と四間道は元祖・防災道路と言えます。また、お墨奉行として有名な朝日文左衛門が記した鸚鵡籠中記には、1707 年宝永地震のとき、熱田台地上の武家屋敷は微小な被害だったのに対し、台地北側の低地では甚大な被害だったことが克明に描かれています。

右図は、江戸中期に描かれた尾張国図です。名古屋城下の西には多数の河川が入り組んでおり、一方で城下の東にはため池が点在しています。熱田以西の様子を見ると、川や湿地帯が多く、陸路での困難さ故に、東海道で唯一、熱田～桑名間が海路となったことが伺えます。



尾張国図（江戸中期）

明治時代になって、1889 年に名古屋は市制を引きました。東海道線が開通したのも、同年の 1889 年です。名古屋駅の前身である名護屋駅停車場ができたのは、それに先立つ 1886 年です。実は、東京～神戸間を結ぶ幹線鉄

道としては、当初、中山道線が計画されていました。名護屋駅は、その建設のための資材輸送線である中山道支線半田線の通過駅として、葦原だったところに盛土して作られました。いわゆる「名古屋飛ばし」です。初代名古屋区長・吉田禄在は、このことに危機感を抱き、東海道案を訴えました。その後、幸か不幸か、中山道案が工事上の困難さに直面したことなどから、中山道案は東海道案に変更されることとなり、支線は本線となって、今の立派な名古屋駅ができることになりました。名古屋の鉄道路線は、東海道線と中央線が熱田台地を避けるように Y 字型に敷設されています。煙や火の粉を吐いて走る蒸気機関車の時代には、鉄道は、木造家屋が密集した市街地を避けて、低地に敷設されたようです。

いずれにせよ、このころまでは名古屋のまちのエリアは熱田台地上に限られていました。そのおかげで、1891 年濃尾地震のときにも、熱田台地上の被害は微少に留まりました。昭和に入ると、富国強兵



の掛け声の下、熱田台地の周辺に工場が作られるようになり、名古屋駅周辺にも町が拡大しました。この結果、1944年東南海地震では、名古屋城の城郭にあった愛知県庁や名古屋市役所の被害は軽微でしたが、熱田台地の外側にあった軟弱地盤上の飛行機工場や軍需工場は甚大な被害を受けました。

もともと、名古屋の人口は、江戸時代は人口5万人程度、名古屋が市制を引いたときで16万人程度でしたが、1934年に100万人を超え、戦前には140万人弱まで増えました。このため、大規模工場は台地上に作ることができず、台地周辺の低地に作られることになりました。これが東南海地震での被害の原因ともなりました。

戦争で焼け野原になり、戦後は一旦60万人まで人口が減りましたが、その後は再び人口が急増し、1950年に100万人、1969年に200万人を突破し、現在は230万人弱になりました。この人口を収容するため、建物を密集化・高層化しましたが、それでは足りず、堀川以西の沖積低地や、東部丘陵に町を拡大することになりました。この結果、海や田を埋めた軟弱な地盤に居住する人口が急増し、中心街も沖積低地の名古屋駅周辺に移動するなど、昔と比べ、災害危険度がしています。

こういった中、明治以降の災害は、確実に名古屋の防災力を高め続けてきました。1891年濃尾地震は、我が国の地震学や耐震工学研究の端緒となりました。1944年東南海地震や1945年三河地震での建築物被害は、建築基準法の耐震規定へと引き継がれていきます。また、戦災の復興計画の中心となった土地区画整理事業は、もともと都市計画名古屋地方委員会において石川栄耀が戦前からリードしたものでした。それを戦後に、名古屋市助役の田淵寿郎が100m道路や墓地移転などと組み合わせて、見事な戦災復興事業へつなげ、都市計画の先進地域としました。

そして戦後最大の自然災害である1959年伊勢湾台風は、災害対策基本法制定の契機にもなりました。伊勢湾台風後には、沿岸低地の建築規制条例である名古屋市臨海部防災区域建築条例（1961）も制定されています。

このように、名古屋は、家康による清州越しで作られた碁盤割の城下を出発点として、江戸の大火での広幅員道路の構築、戦災復興での土地区画整理事業と防災道路としての100m道路の構築、そして伊勢湾台風などを契機とした湾岸地域の防災力の向上など、防災先進都市として、我が国の先頭ランナーを走ってきました。

どうも現代社会に生きる私たちは、この大事なことを忘れていているように感じます。東海・東南海・南海地震を前にして、私たちの地域の過去を知り、将来に備える努力をしたいものです。ぜひ、APLAの皆さんが、率先市民として、備えの先導役になってもらえればと思います。

## 11 お知らせ・掲示板

### APLA本部 第5回研修会 ガラス飛散防止フィルムの上手な貼り方講習

日時：平成24年1月28日（土）9：45～12：15

場所：名古屋市港防災センター3階講習室

参加費 300円 40名（定員になり次第、募集を終了）

### 防災講演会の開催

日時 平成24年2月19日（日）14：30～16：00

場所：一宮市尾西生涯学習センター西館（三菱UFJ銀行尾西支店西隣）

講師：岐阜大学副学長 八嶋厚氏

### 平成23年度 西尾張ブロック定期総会（予告）

日時：平成24年3月18日（日）13：30～16：00

場所：清須市新川ふれあい防災センター

内容〈Ⅰ部 総会〉

〈Ⅱ部 講演会〉講師：名古屋工業大学 前田 健一 准教授

（演題）最新の地震関連情報～西尾張地域における液状化災害～

別途、案内往復はがきを送付しますので、出欠の連絡を返信はがきにてお願いします。

なお、回答の如何に関わらず、「欠席時、決議は議長に一任」とさせていただきますので了解ください。

また、次年度年会費を、支部毎に集金し、ブロック会計に提出下さい。

### 5市町防災リーダー養成講座（大口・扶桑町主管） 2月開催

## 編集後記

すがすがし新年をお迎えのことと喜び申し上げます。APLAの活動も防災・減災を合言葉として、災害に強い街づくりへの発展と皆様のご健闘をお祈りいたします。

追伸 APL19号 目次1ページ 倉知影治様を倉知彰治様に訂正です。

この紙面を、お借りしてお詫び申し上げます。

広報 杉浦